

クサカリツボダイの幼魚

本間義治・水沢六郎

A Record of the Young of Boar Fish, *Pseudopentaceros richardsoni*, from North Pacific

Yoshiharu Honma and Rokuro Mizusawa

クサカリツボダイ *Pseudopentaceros richardsoni* はかなり稀な魚らしく、手許の文献を渉猟した限りでは、南アフリカ、ニュージーランド、北太平洋の北緯 45° 49' ~ 51° 00' と西経 150° 00' ~ 160° 03' の海域（アラスカ半島沖）などから報告されている程度のものである

(Smith, 1949; Welander, Johnson and Hajny, 1957). 本邦からは、Abe (1957) によって八丈島と千葉県房総半島沖から獲られた標本が詳しく記載されている以外に、報文は見当たらない。これらの報告は、いずれも成魚に関するもので、幼魚の記録ではない。

Table 1. Measurements and counts of the young of *Pseudopentaceros richardsoni* (Smith).

Total length	134.0 mm	125.5 mm	120.6 mm	132.5 mm
Standard length	116.0	104.0	101.5	113.0
Length of trunk	44.6	40.0	37.5	41.5
Length of tail	32.5	31.5	30.0	32.8
Depth of body	46.5	42.0	38.1	42.3
Head length	39.0	36.5	35.2	40.0
Maxillary length	12.0	—	—	—
Snout length	14.0	—	—	—
Postorbital length of head	17.2	16.2	15.0	16.4
Eye diameter	9.0	9.0	8.6	9.0
Interorbital width	16.0	—	—	—
Depth of caudal peduncle	12.5	11.3	12.0	13.6
Snout to dorsal	42.0	—	—	—
Snout to ventral fin	41.0	—	—	—
Snout to anal fin	82.5	—	—	—
Snout to vent	73.0	—	—	—
Longest dorsal spine	24.5	—	—	—
Longest pectoral fin ray	23.5	—	—	—
Aperture of nostril	1.0	—	—	—
Dorsal fin ray	XIV, 9	XIII, 9	XIV, 9	XIII + I, 9
Anal fin ray	IV, 8	IV, 7	IV, 8	IV, 8
Ventral fin ray	I, 5	I, 5	I, 5	I, 5
	all branched			
Pectoral fin ray	ii + 15 + i = 18	18	18	18
Caudal fin ray	21	22	23	21
Gill rakers on 1st arch	7+1+17	—	—	—
Scales on lateral line	76	—	—	—
Branchiostegal	7	—	—	—

著者水沢は、最近勤務校の卒業生石坂栄次氏から魚類標本4点を贈られた。これらは本間に送られ同定が試みられたが、そのきわめて特異な体表の斑紋や色彩を除いて他の外部形質は全くクサカリツボダイに一致するので、本種の幼魚であろうと推定された。著者らの得たような幼形で、斑紋を有する個体の記載は従来行なわれていないと思われるので、ここに報告する。

これらの標本は、1967年6月下旬にアリューシャン列島近海で操業中の大洋漁業株式会社所属の捕鯨母船上から、夜間舷灯下に集まったものを、上記石坂作業主任がたも網で掬い採集したものとのことである。標本の体測定値や体節形質の算定値は、一括して表示した(Table 1)。

外部形態についてはすでに Abe (1957) が詳報しているので、ここでは簡単に記載しておく。体高はかなり高くかつ側扁し、その外郭はほぼ長卵形に近い。しかし、

吻端から背鰭起点までは、ごく緩やかな勾配を画いて上昇しているのに、直線状に近く、大きな起伏はない。わずかに鼻孔後方から眼上骨の部分が凹むが、頭部から項部に至る間は平坦で、特に両眼間隔は幅広くなっている。項部から背鰭起部までは、尾根状に高まる。頭部の大部分は、放射状の条線をもった骨格が露出しているのが顕著な特徴となっており、前鰓蓋骨の上方で、眼下との間に形成された平行四辺形状のやや広い部分は鱗で被われている。また、鰓蓋主骨上端の小部分や、鰓蓋前骨上端の小部分にも鱗がみられ、骨質盤で被われてはいない。口唇、上顎骨、吻尖端の三角形の部分、鼻孔周辺の幅狭い部分、頤(オトガイ)を含む下顎の大半なども露出している。口は小さく、下顎は上顎よりもわずかに長い。眼は、比較的大きい。

背鰭起点は、鰓蓋骨後縁の線の真上にある。腹鰭起点は、胸鰭基底の後方に位置する。腰部は幅広く平坦と



Fig. 1. The young of boar fish, *Pseudopentaceros richardsoni* taken from offshore water of the Aleutian Islands in June, 1967, measuring 125.5 mm (upper) and 134.0 mm in total length.

なり、峽部に向かって長三角形を呈する。この部分の鱗は他より幾分大きく、配列も粗雑である。腹鰭から総排泄腔までは直線に近く、尾根状ないし竜骨状の稜縁を形成しており、ここを被う鱗の配列も不規則のままである。

体側鱗は一般にまるくて細かく、覆瓦状に規則正しく並んでいるが、露出部の後縁はでこぼこした波状であり、また中央が隆起して白点状となっているのが特色である。側線有孔鱗数は、双眼実体顕微鏡下でも正確を期すことが困難であったし、その他の部位の鱗数の計測は、一層厄介を伴った。

側線は、鰓蓋骨の上隅より急上昇して後、ほぼ背外郭に沿って走り、尾柄側正中線に終っている。前鼻孔後縁には小皮弁がついており、また頤（オトガイ）に3対の孔があり、最前のものは不顕著である。前鰓蓋骨の後縁は体軸に垂直で、骨表の条線が末端で終わった跡が波状に連なっているが、決して鋸歯状ではない。

各鰭の発達は、いずれも良好で比較的長い。鰭棘は強大で長く、縦方向に条溝が走っているのが特徴で、背鰭では第Ⅲ棘、また臀鰭では第Ⅱ棘が最長。背・臀鰭棘の基部すなわち魚体の背外郭と腹外郭の一部は深い溝を形成しており、その中の第Ⅰ棘はいずれも正中線上に位置する。しかし、背鰭第Ⅱ棘は左に、第Ⅲ棘は右に、また臀鰭第Ⅱ棘は右に、第Ⅲ棘は左にと、以下、交互に正中線上よりずれて埋まっている。そして、右側寄りに発した棘はその尖端が左側へ、また左側寄りのものは右側へそれぞれ傾くように交互に生じている。これらの鰭棘を倒そうとしても不可能であり、このことは多分、担鰭骨の形状に基づくものであろう。背鰭・臀鰭の軟条部と胸鰭の基部は、小鱗を被むる。なお、背・臀鰭の基部は、外方へ大いに高まっているので、したがって尾柄は短かく細く、側面からではくびれて見える。尾鰭後縁はほぼ截形で、わずかに湾入する。

舌は長三角形で、先端は鈍く尖る。歯は両顎と鋤骨にあり、絨毛状帯をなし、口唇や吻は、小絨毛状突起で被われる。また、上顎内側の膜褶はよく発達している。

以上の特徴は、既往の研究者の記載に全く一致しており、正しくクサカリツボダイと同定できる。

体色斑は、ホルマリン液漬標本に基づけばつぎの通りである。体の地色は淡青灰色で、胸鰭基部のレベルと腹鰭との間、および背方には一層紫青色が加わっているが、腹方は白色である。腹鰭起点と臀鰭の最後部とを結ぶ線の腹方を除く体側には、雲状斑すなわち菱形状や見事な井桁状の黒色斑があり、互いに連なって網目状や虫食い状となり、特異な様相を呈する。体側正中部は、幾

分淡褐色を帯びる。鼻骨、眼下骨棚、鰓蓋主骨は暗色で、两眼間隔の平坦部にも暗色斑が散らばっている。背・臀鰭の棘状部および腹鰭の鰭膜は、一面に漆黒色。背鰭棘そのものにも黒色斑があり、時には輪状に囲む。さらに、背・臀鰭軟条部の鰭膜の基底も暗色を帯びる。(Fig. 1).

これらの特異な色斑は、Smith (1949), Abe (1957) および阿部 (1958) が図示している体色とは大いに異なるものなので興味深い。この斑紋の成長期における出現消失の時期は全く不明であるが、一幼魚時期を代表するものとして報告する次第である。

文 献

- Abe, T. 1957. New, rare or uncommon fishes from Japanese waters. VI. Notes on the rare fishes of the family Histiopteridae. Jap. J. Ichthyol. 6 (3): 71~74.
- Smith, J. L. B. 1949. The sea fishes of southern Africa. 1~550. Central News Agency, South Africa.
- 富山一郎・阿部宗明・時岡 隆. 1958. 原色動物大図鑑, II (脊椎動物魚綱・円口綱, 原索動物). 北隆館 (東京), 1~392, i~lxxxvi (阿部: 165 頁, 488 図).
- Welander, A. D., R. C. Johnson, and R. A. Hajny. 1957. Occurrence of the boar fish, *Pseudopentaceros richardsoni*, and the zeid, *Alloctytus verrucosus*, in the North Pacific. Copeia, 1957 (3): 244~246.

(新潟大学教養部生物学教室 新潟市西大畑町・新潟県能生水産高等学校 新潟県能生町)

Summary The occurrence of the boar fish, *Pseudopentaceros richardsoni*, is very rare, although the known localities are widely distributed in the Pacific and Indian Oceans, such as off the coasts of South Africa, New Zealand, Bôso Peninsula near Tokyo, Hachijô Island, and North Pacific near Alaska. As no record on the young of this species has been made, we described four specimens of the young obtained from the surface water of the open sea near the Alutian Islands. Those fish gathered underneath the lightlamp of a whaling vessel were taken with the hand net at a night of late June, 1967.

(Department of Biology, College of General Education, Niigata University, Niigata City, and Noh High School of Fisheries, Noh, Niigata Prefecture, Japan)